

LPガスCP速報(2021年10月積)

1. 10積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **800** ^{ドル} (前月比+135 ^{ドル})

ブタン **795** ^{ドル} (前月比+130 ^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が高騰するなか、LPガス需給は、新型コロナ危機からの経済回復、インド等の堅調な需要、サウジの供給削減、低在庫など一時タイト感が強まったものの、米国玉はパナマ運河の渋滞が緩和、供給懸念が後退し中東産ガス国からの供給も潤沢となった。LPガス市況(極東CFR)は、第1週は710 ^{ドル} どころで推移したが、原油市況に引きずられ、第4週にプロパン800 ^{ドル}、ブタン795 ^{ドル} まで上昇した。

米国では、ハリケーン「アイダ」の影響でメキシコ湾岸の製油所が被害を受け、供給不安が高まったが、プロパン輸出は堅調(全米プロパン需要で輸出は60%を占める)、高水準が続いている。全米在庫は増加しているものの、直近で前年同期比72%に止まり、5年平均レンジを下方に突き抜けた(グラフ②)。穀物収穫乾燥期を迎え、低在庫でのスタートとなり市況は急騰、2014年以来の高値をつけている。米モンベルビュープロパンスポット価格は、第5週に745 ^{ドル} に達し、月平均では前月比90 ^{ドル} 上昇の670 ^{ドル}/ト ^ン どころ(グラフ①)、2014年2月以来の高値。米国に頼る日本としては、今冬、米中西部に寒波が来ないことを祈るほかない。

フレート市況は、中東市場で備船需要が弱く船舶に余剰感があり軟化した。米国積(FOB)は極東着(CFR)との価格差縮小でキャンセル、転売もあり、米国向けの備船需要減退で上値を抑えている。

ナフサは原油価格に連れ高となり月初の650 ^{ドル} から直近に715 ^{ドル} まで上げた。月間平均は685 ^{ドル} どころで、前月比31 ^{ドル} の反騰。

バンカーオイルも原油市況に追随して推移、シンガポールIFO380は月間平均で前月比50 ^{ドル} 高の470 ^{ドル} どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同37 ^{ドル} 上げの605 ^{ドル} どころ、両油種の格差は135 ^{ドル} に縮小した。

10月CPは前年同月比プロパン425 ^{ドル}、ブタン415 ^{ドル} それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン16、ブタン15ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパン21ポイント、ブタン19ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	43	39	39	40	40
CP先物指標：P	695	700	765	765	731
CP先物指標：B	695	700	760	755	728

② 原油市況等

9月の原油市況をみると、新型コロナ危機からの経済回復期待、欧米株価の上昇によるリスク志向を背景に、世界的なエネルギー需給逼迫懸念から大幅続騰、WTIは2018年10月以来の高値を付けた。ハリケーン「アイダ」の影響が続き、米国の原油生産量が減少、在庫は7週連続で減少となり2018年以来の低水準、WTIは27日に75.45 ^{ドル} まで上昇した。一方、OPECプラスは7月に合意した協調減産の段階的縮小(毎月40万b/d)を維持しているが、一部産油国(ナイジェリア、アンゴラ、カザフスタン)では投資不足とパンデミックの影響で増産できない例もあり、需要回復が続く中、需給ギャップを懸念、ゴールドマンサックスは年末のブレント原油で90 ^{ドル} に価格見通しを引き上げた。なお、米国の天然ガス価格も輸出増(LNG・パイプライン)、電力需要増などから高騰、ヘンリーハブなど2014年以来の高値に達し、一部天然ガスから石油へのシフトもみられ原油高の一因にもなっている。

○9月積みアラビアン・ライト(9月1~29日までの想定)は75.75 ^{ドル} (前月比+3.62 ^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン621.07 ^{ドル}/ト ^ン ブタン612.55 ^{ドル}/ト ^ン

AL比 プロパン128.81% ブタン129.78%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

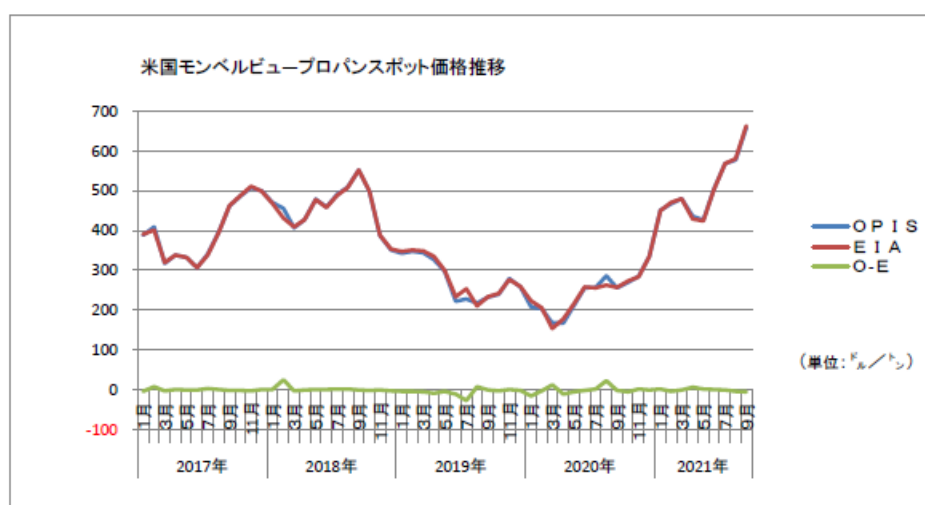
2. 2021年10月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	110.91	87,500	87,300	89,200	+7,800	+7,800	+8,600
②末日締め	111.17	81,400	81,200	82,800	+8,000	+8,000	+8,700

* T T S平均について、①が8月21日～9月20日、②9月1～30日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは9月28日までの価格を基にE I Nで試算（670^{ドル}/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

①米MBプロパンスポット価格推移



②全米プロパン在庫推移

